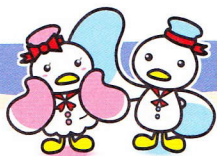


伝言板

No.11(H20.10)



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

設立 5 周年を迎えて	1
みなとサポート業務～各支部の支援活動～	2～4
「助成事業」の実施について	5～6

人気キャラクター！ぼーとん&べいくりん ～誕生から現在までの経緯～	7
釧路港舟漕ぎ大会	8
お知らせ	8

設立 5 周年を迎えて

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構は今年設立 5 周年を迎えました。この間会員並びに関係各位には当法人の活動、運営に対し一方ならずお世話になりました。おかげさまでもちまして現在、正会員数は 200 名、73 団体、また賛助会員は 11 団体の会員を数えるまでになりました。

当法人の活動状況、関連情報などをお届けする機関紙「伝言板」も本号で 11 号となります。5 年の節目を経ました今回、これまでの活動状況、取り組みをとりまとめご報告し振り返ってみたいと思います。

設立からの取り組み

平成 15 年の設立初年度からの事業として「**みなとパネル展**」があります。港の活動をわかりやすくパネルに取りまとめ、住民の方々の理解を得るものであり「ザ・シンポジウムみなと」の協賛事業として毎年実施しています。パネルの準備、設置、説明を当会員が担当していますが毎回多くの来場者があります。2 年目の平成 16 年度からは「**親子で行くみなと学習見学会**」を開催し、普段なかなか海側から眺めることのないみなと街の風景を楽しんでもらいました。本事業は平成 19 年度で休止し、当見学会は実施主体から活動支援に回りました。同じく平成 16 年度からは「**みなと座談会**」を北海道みなとまちづくり女性ネットワークの皆さんの協力を得て開催しています。女性ならではの視点を中心に毎回熱心な議論が行われています。今年度は重要港湾十勝港の所在地である広尾町で第 5 回目の座談会を行います。

理事長 中村 信之



平成 20 年度からの新規事業として「**みなとサポート事業**」が立ち上がりました。国、市町などが実施するパネル展、ポートウォッチング等の行事に会員を

「みなとサポーター」として派遣するものであり、現在個人会員の約 3 割に当たる 64 名の方に登録いただいています。今年度はこれまでに延べ 41 名の方に参加いただきました。今年度はもう一つ新規事業として港の活性化につながる活動の「**助成事業**」を創設しました。低迷する北海道経済の中にあってボランティアによる会員が主体となっていくみなとの活性化につながる活動を支援強化するものであり、7 件の応募をいただき全件に対し助成を行いました。

港の防災、災害に係る活動支援も当法人の主要事業の一つです。平成 18 年 10 月に北海道開発局と支援協定を結び「**防災エキスパート**」(港湾・空港・漁港)を災害時に派遣することとしています。現在 26 名の会員の登録があり、毎年研修を通して研鑽を行い技術力の維持向上を図っています。

以上これまでの取り組みを駆け足で振り返っていましたが、NPO 法人は、社会貢献活動を行う営利を目的としない団体です。繰り返すまでもなく当法人は各会員のボランティア活動により成り立っています。引き続き多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

みなとサポート業務～各支部の支援活動～

当法人は、平成 20 年度の新規事業として「みなとサポート業務」を実施しました。

この業務は、開発建設部が開催（または協力）する「みなと見学会」や「みなとパネル展」などの実施について、NPO 側に支援要望のあったものから支援可能なものを NPO 会員の「みなとサポーター」（注 1）が支援するものです。

開発建設部（企画・運営は築港課と港湾事務所）主催の行事について、当事務局と担当する各支部が連携をとりながら支援活動を行いましたのでその概要をご紹介します。

（注 1）開発建設部から支援要請のある「みなとに関するイベント」を支援するため、当 NPO 会員があらかじめ登録し派遣される者。

〈札幌支部〉

一般市民へ海と港の理解及び啓蒙を図ることを目的に、小樽開発建設部が主催した港にかかわる次の行事を支援しました。

①石狩湾新港みなと見学会（7月1日～3日）

小学生（3～5年生約 350 名）を対象に学習の場として提供しているものです。

港内見学は各班毎に約 40 分程度とし監督測量船「ひまわり（総トン数 19 トン）」乗船してもらい、船内放送により港の様子を説明。

サポーター（2 名／日×3 日）は見学者が乗下船する際に救命胴衣の着脱を手助けしたり安全に対する警備を支援。



石狩湾新港



石狩湾新港

②マリンフェスタ in 小樽（7月20日）

「海の日」の意義を広め、海事思想の普及を図ることを推進する「海の月間」（7月1日～7月31日）関連事業の一環として開催される「マリンフェスタ in 小樽」（実行委員会事務局：北海道運輸局）に小樽開発建設部が主催の立場で参加することにより、所管している港湾・漁港事業に対する市民の理解と啓蒙を図ることとしているものです。

当日受付した乗船希望者の先着 80 名程度が「ひまわり」に乗船、午前 2 航海と午後 3 航海、港内を約 30 分見学。

サポーター（2 名）は乗船希望者の受付と救命胴衣着脱の手助けや安全に対する警備、アンケート調査などを支援。

③みなとパネル展（7月20日）

小樽築港駅マリノード（架橋連絡通路）において、前記の「マリノフェスタ in 小樽」にあわせて港に関するパネルを展示。パネルの内容は、小樽港の歴史や港湾事業紹介など約30枚程度。

サポーター（2名）はパネル説明や周辺警備、アンケート調査などを支援。

④岩内港みなと見学会（7月22日～23日）

防波堤や岸壁などの港湾施設を見学するもので、小学生（3～4年生約150名（2日間で5航海））を対象に「ひまわり」に乗船してもらい、港湾の役割などについて説明。

サポーター（2名/日×2日）は見学者の安全のため救命胴衣着脱の手助け及び安全に対する警備などを支援。



岩内港



岩内港

⑤おたるマリンスクール（8月1日）

次代を担う小樽の子供たちに、海への関心を深めてもらい、その大切さを学んでもらうことを目的に、小樽市主催（建設部協力）による一般公募で参加した小学生（5～6年生約50名）を対象に、2班が交互に「ひまわり」に乗船し海上からの見学、陸上では「おたるみなと資料館」の見学を実施。



おたるみなと資料館

サポーター（2名）は見学者の救命胴衣着脱を手助け及び安全警備、資料館内部の警備を支援。

⑥石狩湾新港みなと見学会（8月6日）

石狩市教育委員会が主催の「石狩市教職員研修サマーセミナー」の一環として石狩市内小中学校の先生を対象に「ひまわり」に乗船してもらい、海上からの見学並びに展望塔から港湾を眺望しパネル等で港湾の役割を説明。

サポーター（1名）は見学者の安全警備や見学のための補助的業務を支援しました。

⑦増毛港ポートウォッチング（9月28日）

留萌開発建設部は、増毛町主催の“秋味まつり”に合わせ、一般市民へ海と港の理解及び啓蒙を図るため主催したものです。

乗船希望者は各班毎（12名程度）1航海約30分程度で6航海の港内見学とし、監督測量船「ゆりかもめ（総トン数19トン）」に乗船してもらい、船内放送により港の様子を説明。

サポーター（2名）はポートウォッチングの見学者の安全警備及びアンケートの調査を支援。



増毛港ポートウォッチング

〈函館支部〉

一般市民へ海と港の理解及び啓蒙を図ることを目的に、函館開発建設部が主催した港にかかわる次の行事を支援。

- ①函館港ポートウォッチング(7月24日 小学生1航海、25日 中学生1航海)

監督測量船「みずなぎ(総トン数19トン)」に乗船、港湾の役割などについて説明。

サポーター(1名)は、見学者の誘導を支援。



函館港ポートウォッチング

- ②函館港ポートウォッチング(7月29日、30日、8月5日、7日、19日)

一般市民を対象に「みずなぎ」に乗船してもらい港内を見学。

サポーター(1名)は、見学者の誘導を支援。

- ③森港ポートウォッチング(8月23日)小学生を対象に「みずなぎ」に乗船してもらい港内を見学。ならびに陸上の周辺施設も見学。

サポーター(1名)は、見学者の誘導とアンケー

ト調査を支援。

〈苫小牧支部〉

一般市民へ海と港の理解及び啓蒙を図ることを目的に、室蘭開発建設部が主催した港にかかわる次の行事を支援。

- ①室蘭港ポートウォッチング及びみなとパネル展(7月21日)

一般市民を対象に監督測量船「みさご(総トン数19トン)」に乗船してもらい、港湾の役割などについて説明しました。同時に道の駅「みたら」においてパネル展も開催。

サポーター(2名)は、見学者の受付や案内等を支援。

- ②苫小牧港みなとパネル展(7月19日、22日)

苫小牧サンガーデンにおいて、みなとパネル展を開催。

サポーター(1名)は、会場設営と撤去作業を支援。

- ③白老港みなとパネル展(7月26日)

第1商工区において、みなとパネル展を開催。

サポーター(1名)は、会場設営を支援。

- ④白老港ポートウォッチング(7月27日)

監督測量船「はやぶさ(総トン数19トン)」に乗船してもらい、港湾の役割などについて説明。

サポーター(2名)は会場撤去を支援。

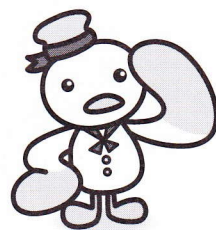
〈釧路支部〉

一般市民へ海と港の理解及び啓蒙を図ることを目的に、釧路開発建設部が主催した港にかかわる次の行事を支援。

- ①釧路港みなとパネル展(9月7日)

漁業埠頭において、みなとパネル展を開催。

サポーター(2名)は、プレゼントグッズの配布について支援。



「助成事業」の実施について

1 助成事業の目的と募集案内について

当法人は、地域社会の生活と産業活動の場である港の効果的、効率的利用の促進や港を核としたまちづくりに係る広報事業、海洋性レクリエーションや港と暮らしに係る教育文化事業、海浜環境の保全に係る事業、国際定期航路等を通じた港の国際交流に係る事業を行うとともに、これらの活動を行う個人及び団体への支援事業を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的としており、この目

的を達成するために必要な事業を行っております。

当法人は、平成 20 年度より会員の皆さんなどが主体となっていく道内のみなどの活性化につながるイベント等の事業に対して助成することとしました。

助成事業に関する募集要件、助成対象者、応募期間及び助成金額等については、当法人のホームページ (<http://minatobunka-npo.info/>) において下記のとおりお知らせしました。

みなとまちで開催するイベントへの助成について（募集）

NPO 法人「北海道みなとの文化振興機構」では、平成 20 年度より当機構の目的の一つである「港の効果的、効率的利用の促進や港を核としたまちづくりに係る広報事業を支援する」ため下記の募集要領により助成事業を行います。

(1) 募集要件

道内でみなとまちの活性化をめざし実施されるイベント等の事業とします。

(2) 助成対象者

イベント等を開催する団体などとします。

(3) 助成応募期間及び助成額

- ・助成応募期間は、4 月 1 日から 5 月 23 日迄とします。
- ・助成金額は 1 件につき 15 万円以内とします。

(4) 助成申請方法

申請及び問い合わせは、北海道開発局の各開発建設部の築港課に設置されている「海とみなとの相談窓口」で受け付けております。

申請書には、イベント名・イベント開催場所・開催日時・開催主体団体名・主催者の代表者名・イベント開催の目的・共催団体および支援団体名・当機構への助成要望額（15 万円以内）等を記入し申請して下さい。

(5) 選考及び決定通知時期

- ・選考は、当機構に設置する外部の学識経験者等による評価審査委員会が「みなとの活性化に効果が大きい事業」数件を選定します。
- ・決定通知は、6 月上旬に通知します。

2 申請状況と「助成事業に係わる評価審査委員会」の開催について

助成事業に関する申請及び問い合わせにつきましては、北海道開発局の全面的なご協力を得まして各開発建設部の築港課に設置されている「海とみなとの相談窓口」で受け付けをしていただきましたが、2件ほど直接NPOへ電話で問い合わせがありました。また、各団体に助成事業申請書に関する問い合

わせ等に対し、イベントを企画し実施する団体の関係者の皆様のみなとまち活性化への熱心な取り組みと熱意が強く感じられました。

助成応募期間は、4月1日から5月23日迄としましたが、稚内港から函館港まで全道各地の団体等から下記7件の応募がありました。

申請活動名	団体名
天塩みなとクリーンアップ作戦	NPO 法人天塩川を清流にする会
第1回「ポート天国」市民舟遊び！	小樽築港ベイエリア活用促進実行委員会
留萌の青い港と海を次世代に残すための活動	蒼い海
第4回苫小牧勇払マリナーフェスティバル	苫小牧勇払マリナーフェスティバル実行委員会
港を核としたみなとの空間はないっばい活動	女性みなと街づくり苫小牧
第6回「WAKKANAI みなとコンサート」	稚内のみなとを考える女性ネットワーク
はこだて みなとと魚の学習会	みなとまちづくり女性ネットワーク函館

助成事業に係わる評価審査委員会は、平成20年5月23日に開催しました。

委員には、学識経験者として北海道工業大学社会基盤工学科の水野雄三教授、北海道大学大学院水産科学研究院の古屋温美特任准教授にお願いしました。また、当法人より中村信之理事長と大野隆由事務局長が委員となり計4名の委員の方が各団体等から提出された申請活動に関する応募資料について審査を行いました。

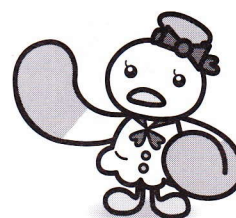
審査の選考基準は、事業の目的が「みなとまちの活性化への効果が期待出来る事業」であることと事業の効果が認められること。また、地域住民との連携と広がりについて、過去の開催実績等について審査をおこないました。

審査委員会の結果は、申請のあった7件の活動内容とも、みなとまちの活性化への効果が十分に期待出来ること、また、過去の開催実績等が十分に評価できるとの意見が多かったことから今回は、助成金額に大小はありますが申請のあった7件全てを助成事業として採択しました。

採択結果については、申請のあった団体等へ郵送で結果をお知らせすると共に当法人のホームページ(<http://minatobunka-npo.info/>)においても採択結果をお知らせしました。



助成事業審査状況



人気キャラクター！ ぽーとん&べいくりん ～誕生から現在までの経緯～

キャラクターは北海道開発局や当 NPO 法人が、みなとに関する催しもの等に、着ぐるみ、印刷物、プレゼントグッズに活用されるとともに広く知られてきました。このキャラクターについて、その誕生の経緯や現在に至るまでを簡単にご紹介いたします。

● ぽーとん&べいくりんの誕生

「物流効率化に向けた港湾利用促進キャンペーン実行委員会」の設立当初（平成11年5月）に、“港湾の役割を広く道民に知って頂くため” 北海道のみなとのキャラクターを（平成11年6月）制作しました。

● キャラクターの決定方法

上記実行委員会が検討し、デザイン化したものを小学校高学年へのアンケート調査（277 件）により、最終的に決定し、愛称は、新聞や公募雑誌に掲載して一般から募集し、実行委員会及び一般からの審査員による審査会により決定されました。

● 著 作 権

平成 13 年 3 月 21 日特許庁に出願し、平成 14 年 2 月 22 日に登録。商標権者は前記の実行委員会の主催団体である「(社)寒地港湾技術研究センター」となり、その後平成 17 年 8 月 19 日付けで、当 NPO 法人に対し譲渡による移転登録され、現在に至っています。

● 着ぐるみの制作履歴（ぽーとん&べいくりんのセット）

1 号：平成 12 年 8 月、2 号：平成 13 年 7 月、
3 号：平成 17 年 7 月

● 着ぐるみの活用経緯

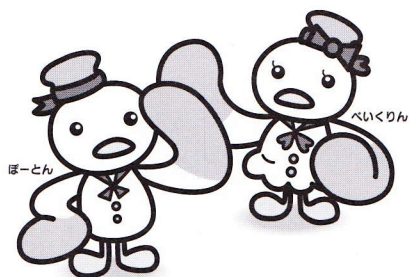
平成 12 年から北海道開発局が開催した各種イベント（ポートウォッチング、みなと見学会、パネル展、セレモニーなど）や、その後、当 NPO 法人が開催したパネル展等などに活用されてきました。しかし、1 セット当たりの制作費が高額（140 万円／組）であり、かつ、年間の修理費、管理費も支出しています。

着ぐるみは一番古いものが 9 年目となっていて、古いものから順に更新していく計画とし、平成 19 年度から更新のための積立金を確保するため有料化を図りました。

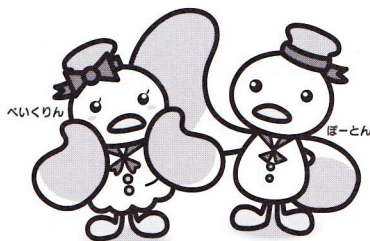
● 平成 20 年度の利用状況

着ぐるみ 1 号セット 小樽開建 2 件、稚内開建 1 件
着ぐるみ 2 号セット 稚内開建 1 件、室蘭開建 2 件、
釧路開建 2 件
着ぐるみ 3 号セット 釧路開建 1 件、函館開建 1 件

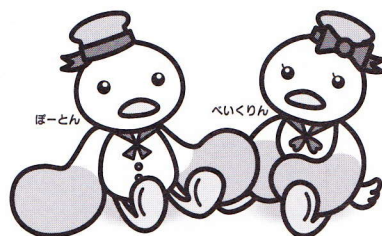
● 三 つ の ポ ーズ ●



けいれい



あいさつ



きゅうけい

釧路港舟漕ぎ大会

釧路川幣舞橋上流で8月2日(土)第4回「釧路港舟漕ぎ大会」が開催されました。

当 NPO 法人の中村理事長が舟漕ぎ大会副会長として出席しました。

競技は小雨、時々曇りで肌寒い中8時30分開会式、9時からレースが始まりました、種目は一般の部50チーム、女性の部15チームが出場しました。競技は1チーム漕ぎ手6名、声かけ1名、旗持ち1名の8人が長さ8m、幅1.5m、舵なしの舟に乗り込み、幣舞橋上流に設けた往復200mのコースで競うものです。

競技方法は、1レース5隻で予選を行うが、舟は風、川の流れ、舵無し、漕ぎ手の息が合わない等のことから蛇行し時間をロスする舟もあった。コース通りに舟を早く進めるためにはチームワークと猛練習が必要だと感じました。

今年は、敗者復活戦を設けていましたが天候が回復しないため、一般の部は予選タイムの上位5チームによる決勝、女性の部は予選タイムで優勝を決めるよう競技時間短縮の変更となりました。

競技終了後、表彰授与に入り優勝から5位までが入賞となり、表彰状と副賞が贈呈されました、(優勝者には副賞として、一般の部は20万円、女性の部は10万円など)その他、優勝チーム当てクイズや写真コンテストも行われていました。閉会に当たり大会実行委員会から「来年は記念する第5回大会なので賞金をバージョンアップする」ことを告げると、選手及び関係者等から「ウォー」と言う歓声と拍手が上がり大会は盛会のうちに終了しました。

このイベントは、実行委員会の綿密な計画と各関係者の協力及び多くのボランティア参加で実施されました。



〈お知らせ〉

- 1) 「みなと座談会」は平成20年11月18日(火)午前、広尾町において「北海道みなとづくり女性ネットワーク」と当 NPO 法人との共催により開催する予定です。パネラーには「みなとまちづくりに活動する地元の方」や「北海道みなとづくり女性ネットワーク会員」等が参加する予定で、地元の活動家や行政関係者がオブザーバーとして参加されます。
- 2) また、11月18日(火)午後から、帯広市「ホテル日航ノースランド帯広」2階において「ザ・シンポジウム in 帯広」が開催されます。当法人はこのシンポジウムに合わせ、会場前のスペースを利用して「NPO パネル展」を開催する予定です。
- 3) 本「伝言板」の内容はホームページにも掲載していますので、会員以外の方も自由にご覧下さい。

ホームページのアドレス <http://minatobunka-npo.info/>